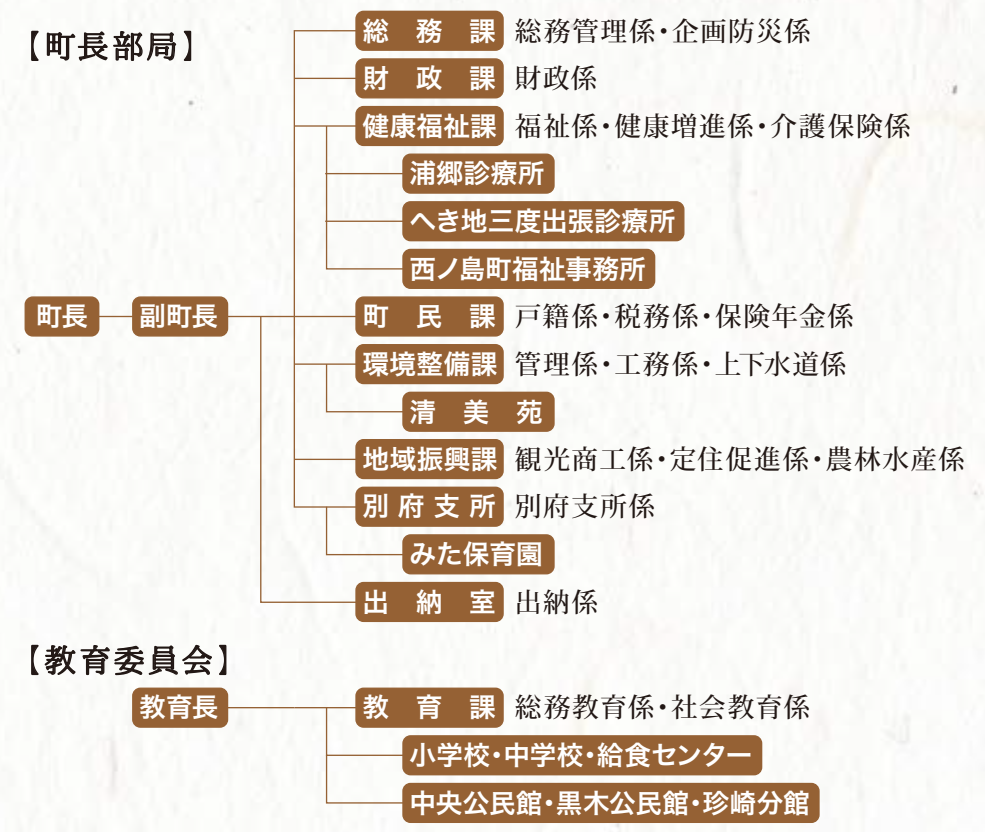


西ノ島町の行政

西ノ島町役場

「人の力」が主役となったまちづくりを進めることを第一に、豊かな資源を活かし、みんなで助け合い、心身ともに健やかな「夢と笑顔のあふれるまち、西ノ島」の実現に向けた住民サービスを提供します。

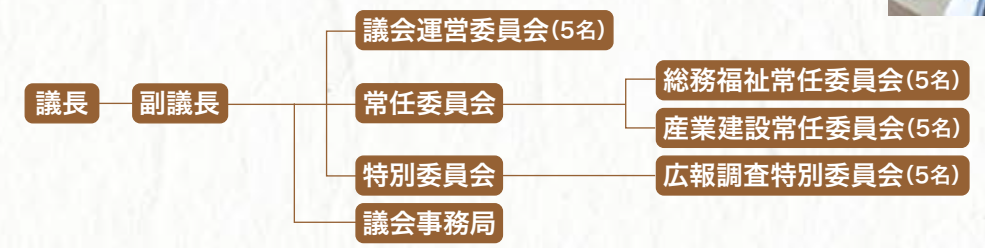
行政機構図



西ノ島町議会

町議会は、住民の代表として、西ノ島町をより豊かで暮らしやすい町にしていくために、町長が提案する予算、条例などの調整の重要な事柄を審議し、最終決定する大切な役割を担っています。

議会機構図



古代

隠岐は、古事記・日本書紀でみられるように国土生成の時より大八州の1つに数えられ、歴史的には古い島であるといわれています。上古には大陸間海上交通の要衝であり、孤島とはいえ、早くから開けた島であったので、古代国家の体制が確立すると共に島でありながら一国として扱われ、応神朝には隠岐国造が任ぜられました。



中世・近世

律令時代に隠岐は遠流の地に定められ、以来近世まで一貫して流刑の島として遠流刑に処せられた人々は数知れないといわれています。その中には中央の史上に顕れる知名度の高い名士や高官もあって、地域の文化や一般庶民の生活・風俗に及ぼした影響は大なるものがあったと思われます。

近世は、北前船の風待港として栄え、上方文化の影響を直接受けるなど流人の島としては文化的に比較的恵まれた環境であったといえます。

現代

西ノ島町は、昭和32年2月11日、国の画期的な町村再編成の線にそって、旧黒木村と旧浦郷町が合併した町で、隠岐の島町に次ぐ人口を有し、島前地区の産業、交通の中心地となっています。

それ以降漁業と観光・畜産の町として発展し、昭和38年には大山隠岐国立公園に指定され、隠岐を代表する景勝地、国賀海岸により広く知られています。



沿革



後醍醐天皇

隠岐 焚火の社
初代歌川広重画

